



アポカリプス (6)
ウィリアム・ハロウズとの共作
シルクスクリーン紙
95.5×95.5cm 1988
© Keith Haring Foundation

「キース・ヘリングとの対話」 — バイブルの無い教会 —

The Cosmic Dialogue with Keith Haring

最先端の情報を得て、アクセスすることを命題とする社会。コミュニケーションの手段はますます端的になり、無数の人と時空を超えて交信することが可能になりました。テクノロジーの発展によって、世界と時間との距離は驚くほど狭まりました。しかし、人と人との距離をテクノロジーは本当に無くすことができるのでしょうか。キース・ヘリングが生きた80年代にはコンピューターはまだ一般には普及していませんでしたが、キースは1979年に「機械=コンピューターが今後人間が物理的に可能なこと、そして知性までを操作するようになったら我々の役割ってなんだろう？そして我々の将来と自由は？」と、問いかけていますが、その答「対話—ダイアログ」によって探っていたのだといえるでしょう。サブウェイドローイングは彼の対話のベースとなっている作品でしょう。

今展では、キース・ヘリングとの対話が可能になるように美術館の3つの空間を人生のパッセージとし、「考える部屋」、「胎動の空間」、「希望の部屋」というテーマを与えました。

「考える部屋」は暗い闇・閉塞感のある沈黙の空間。世の中の矛盾、日常の不安、自己との葛藤が彷彿するような空間です。中央に置かれている椅子に座って、目を閉じてみて下さい。と。人間が生まれた瞬間から死に対する恐怖と戦って生きていることを知り、そして忘れかけている何かを思い出すかもしれません。

「胎動の空間」は未来を予感させる時空。人間はしばしば錯覚に陥ることがあります。混沌とした現代社会の虚構に惑わされることもあります。しかしこの空間で鑑賞する作品「受胎告知」は、確実な明日へ向かって新しい何か動き始めていることを感じられるでしょう。命の鼓動がこだまします。

そして「希望の部屋」は夜明けの光が差し込み、闇から解放されるような空間。世紀末を現し「アポカリプス」の中には人間が生きているいじょう必ず内在する苦悩や混乱があります。生命には必ず終わりがあるように、物事にも終焉が訪れる。しかし、終焉は始まりの入り口となり、次の世代へと希望をつないでいく。心の目を開いて普遍性を感じてください。

特別展示:社会活動を芸術活動の一環として生涯続けたヘリングは数多くのポスターを残しました。今展ではキース・ヘリング財団の協力を得てオリジナルポスターを年間を通して約 100点披露します。これこそがヘリングが確立したビジュアル・コミュニケーションです。

会期中の特別プロジェクト:パッセージの最後に、皆様が感じたこと、普段言いたくも言えないことなどを自由に発言していただけるよう録音マイクを用意しました。小淵沢の自然の中で今一度、心を開いて自分の声を聞いてみませんか？

会期:2011年3月19日(土)~2012年1月9日(月)

開館日:会期中無休

開館時間:10時~17時

夏期ナイトミュージアム

7月毎週金・土・日/午前10時~午後7時

8月毎週金・土・日/午前10時~午後9時

入館料:一般 1,000円、小中高生 600円、大学・シニア800円、
団体割引(20名様以上)・障害者割引あり

協力: The Keith Haring Foundation

後援: 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教員委員会



小淵沢アートビレッジ KOBUCHIZAWA ART VILLAGE

中村キース・ヘリング美術館

〒408-0044 山梨県北杜市小淵沢町10249-7

TEL.0551-36-8712 FAX.0551-36-8713

<http://www.nakamura-haring.com>

